

検査項目		検査についての説明	
尿	比重	尿に含まれている成分によって変化します。尿崩症などの尿量が増加する場合には低値になり、逆に、熱性疾患、急性腎炎、下痢、嘔吐などの尿量が減少する場合には高値となります。	
	尿	pH	pH7が中性で、これより上がアルカリ性、下が酸性となります。一般には食事が動物性の場合には酸性になり、植物性の場合にはアルカリ性となります。また、尿中に多数の細菌が存在する場合でもアルカリ性となります。
		蛋白	腎臓病の指標であり、腎炎、悪性腫瘍、高熱、糖尿病性腎症などで尿中蛋白量が増加します。また、食事の影響や激しい運動、ストレスなどにより一時的に陽性となる場合もあります。
	尿	糖	糖尿病など血糖値が高い場合や、腎機能低下などで陽性となります。また、食事の影響や激しい運動、ストレスなどにより一時的に陽性となることがあります。
		潜血	尿中に血液が混入していないかを調べるもので、腎炎や膀胱炎、尿路の結石、腫瘍、特発性腎出血、遊走腎などで陽性となります。
	尿	ビリルビン	ビリルビン（胆汁色素）が腸内の細菌によって分解されて出来るもので、常にある程度は尿中に排泄されていますが、肝機能障害や内出血、便秘などで増加します。
		ビリルビン	黄疸を伴う肝疾患や胆管疾患などで陽性となります。また、肝炎や薬物中毒による肝細胞の障害で陽性になる場合があります。
	検査	アセトン体	脱水、飢餓、絶食および糖尿病の代謝異常期において陽性となります。
		亜硝酸塩	尿中に細菌が多く存在する場合に陽性となります。亜硝酸塩を産生しない細菌の場合は陰性となります。
		白血球	尿路感染など白血球が多く存在する場合に陽性となります。
尿	尿沈渣	<p>尿中の有形成分を顕微鏡で調べる検査で、赤血球、白血球、上皮細胞、円柱、細菌、結晶などが見られます。その他、酵母様真菌、精子、寄生虫などが見られることもあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤血球：尿定性検査の潜血と同じく腎および尿路の炎症、結石、腫瘍などで増加します。また、男性では前立腺疾患、女性では月経、その他の性器出血でも認められます。 白血球：腎および尿路の炎症や尿路感染症などで増加します。 上皮細胞：腎および尿路を形成する細胞で、尿路の炎症や腫瘍などで増加します。健康な人でも若干認められます。 円柱：正常でも若干認められるものもありますが、多くの場合は腎実質に何らかの異常のある場合に認められます。 細菌：膀胱炎、尿道炎、尿路感染症で陽性を示します。 結晶：健康な人でも尿酸塩やリン酸塩など、各種の結晶が認められますが、持続的に多量に認められる場合は、結石形成の一因になることがあります。 	
糞便検査 (ヒトヘモグロビン潜血)		肉眼では認められない糞便中の血液を検出する検査で、消化管の癌、ポリープ、潰瘍などの発見に有用です。	
血糖検査	GLU(空腹時)	検査当日の血液中のブドウ糖量を調べる検査で、通常一日の中で最も低い値を示します。	
	HbA1c	過去約1~2ヶ月間の血糖状態を調べる検査です。	